

地域活性化へ協定

OTS・琉大 人材交流など連携

沖縄ツリスト(OTS)、那覇市、東良和会長と琉球大学観光産業科学部(下地芳郎学部長)は23日、人材の相互交流や地域社会の発展・活性化への取り組みなどを盛り込んだ包括連携協定を締結した。協力体制を継続・発展させる。琉球大学の専門科目にO



包括連携協定を締結した沖縄ツリストの東会長(左から2人目)、琉球大学観光産業科学部の下地学部長(同3人目) 〓琉球大学

TSの職員が講師を務める「旅行ビジネス論」を設け、インターシップの受け入れを強化、学生が考える旅行プランの商品化など、人的・知的資源の交流と活用を促す。東会長は「ニュージブラルダでのレンタカー事業など、沖縄発の新たなビジネスモデルの構築などに触れ「理論と実践を両立させるためにも、大学との連携は重要。IT活用など学生のクリエイティブな発想を現場に取り入れたい」と強調。

下地学部長は「OTSには従来から協力をいただいている。協定を機に内容を発展させたい。人間性を含めた教育が求められる中、学外での学びの充実につながる」と期待した。

国際的人材育成 地域発展に貢献

琉大と沖縄ツリスト

琉球大学観光産業科学部(下地芳郎学部長)と沖縄ツリスト(那覇市、東良和会長)は23日、国際的な人材育成や地域社会の発展



包括連携協定を結ぶ琉球大学の下地芳郎学部長(右)と沖縄ツリストの東良和会長 〓23日、西原町の琉球大学

などを目的とした包括連携に関する協定書を西原町の同大学で締結した。今後沖縄ツリストは講師の派遣や学生の職場研修の受け入れ、学生と共同での旅行プランの商品化などを手掛けていく。

下地学部長は「大学教育は従来型の知識だけではなく、さらに人間性を含めた教育が重要。次年度以降も企業とさまざまな連携し、それぞれの活動が地域社会の発展にもつながるような流れをつくっていきたい」と述べた。

東会長は「沖縄型の観光モデルを輸出できるまでにするためには、大学などの教育機関との連携が重要だ」と話した。